



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (3632) 0156

創立35周年を迎え

楽しく語り合ひましょう

期日 平成6年6月26日(日)午後一時 会場 東京新潟県人会館

新緑まばゆい好季節となりました。会員の皆様には、健在で活躍のことと存じます。新春以来の再会を期して意義ある三十五周年をお祝いしたいと思います。奮って御出席下さい。

記

一、日時 平成6年6月26日(日)午後一時(正午より受付) 一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)

営団地下鉄「湯島」二分(千代田線)、「上野広小路」六分(銀座線)、「JR「御徒町」七分

一、会費 五、〇〇〇円(料理、飲み物、果物など) お願い 返信は6月20日までに届くようお願い申し上げます。

浅田壮太郎先生を偲ぶ「ゆめ・思いの道」出版

先生を慕う人達が、その思い出を語って、追悼の書を出版した。年譜によって、先生の全貌が一層はつきりした。一九二頁。希望の方は農協、

関広一市議へ。総会でも頒布します。佐藤量八氏でもよい。千円、四面参照 同級会だより

立志会(昭21) 2月20日

三浦半島、鎌倉、江ノ島を一周。鮎の兜焼きを賞味した。23名参加。片貝から5名 昭六会(昭6) 6月3日 蓬平温泉へ。25名参加の予定

会の動き

新年会 1月30日 二面参照

青樹荘花の旅 4月10・11日 三面参照

浅田壮太郎先生を偲ぶ会 4月23日 四面参照

会長より電報を送る。佐藤 前会長が出席

役員会 5月16日 日本橋「小柳」にて。会の機構を刷新して、若返りをはかるため。具体的には、総会までにとめる予定。十一名が出席した。

創立35周年総会(予定) 6月26日

お願い

年会費 一〇〇〇円(四月一日から三月末日まで) 昭和六十年四月から変更しております。 案内状の中に、振替用紙が入っている方は、その年度の会費が未納の方です。ご送金

三たび佐藤邸のこと

—その後の動き—

昨年の暮に、近隣の二の町、三の町、町裏、屋敷の四地区が公共用地として、買取して欲しいと市へ陳情した。 続いて3月25日に、農協ホールで、町づくり懇談会があった。その際、切り売りされないうちに、買取してほしい、というのが大方の希望

だった。 4月17日には、協議会が中心になって、遺族の声を直接聞くことになった。いずれも売りたいとの希望が確認されたので、入手した後の利用方法が話しあわれた。 民族資料館を作る、多目的集会場にする、など、など。

千五百坪で、時価一億七千万円ともいわれている。 市では、文教委員会が担当であるが、この先どう結論が出るのか。以前より、歩前進はした。しかし、まだはつきりした見通しは立っていないようだ。 一部の声として、遺族が町へ寄贈してくれては、との意見も出ていた。(小千谷新聞による)

移動

- 昭16 浅田 勇 334 鳩ヶ谷市三ツ和3-8-23 (表示訂正) 電話 044-976-2901 "24 山口 イセ 町田市金森777-6-304 (訂正) "30 山口 計子 257 秦野市曾屋1-4-27 (訂正) 下記4名の方は病気のため退会 昭2 西山 きみえ 昭5 岡 ヨキ " 山田 雅子 "10 富塚 ヨシ 逝去(ご冥福を祈ります) 大10 黒崎 スイ 平成5・7 昭6 安達 秀二 平成5・12・6

# 新年のほがいで盛大に

朝から青い空が輝いて、家を出る足どりも軽かった。定刻前に、ほは席も埋まり、交歓の声で会場は賑わっていた。黒崎正さんの進行で開会となる。

## 年頭のメッセージ

勝又会長の年頭の挨拶、本年は役員改選を実施の予定です。内容が固まり次第、次回には発表したい。会員諸氏のご多幸と健康を祈念します。続いて母校を励ます会の代表佐藤祐一さんが、日頃より皆さんからのご支援に感謝

懇親会



し、次のような報告があった。会の活動はこれまで十余年続いています。偏に皆さんのご熱意の結果であり、感謝に堪えません。

ご承知の通り、図書を贈ることと講演会を行っています。来年度の計画は、これらにたてることになる。私としては、以後も継続して実施したいと考えています、と。

## 懇親会

乾杯は佐藤前会長の音頭。和気あいあいの語らいが、

福引き



平成6年1月30日  
東京新潟県人会館

いつものように会場を埋めつくす。

本年の福引きは、皆さんからの寄贈に頼らず、すべて会から準備された。盛りたくさんに準備された品々が、提供された。

のどに自信の方々が、つぎつぎと歌う。場内が高調に達した頃しゃがりが始まる。今回は、山口三郎、早川松太郎、小野塚茂、浅田鉄二の四氏が演奏された。そして木遣り唄を大合唱して午後四時閉会となった。

楽しく歌う



## 出席者 61名

- 大正
    - 佐藤正雄 佐藤量八 安達宗吾
    - 神林マス 山口富次 石黒ミス
    - 安達徳太郎
  - 昭和21、10
    - 小川茂雄 酒井ミヨ 山口ヨシ
    - 早川松太郎 日下部政子
    - 芝 五郎 藤田睦子 丸山 春
    - 浅田鉄二 芋川とし 佐藤フミ
    - 田口タズ 馬場キイ
    - 山口三郎 相崎善次郎 勝又 功
    - 朝妻ヨシ 大内登世 本田松次
    - 吉原彦作 黒崎孝造 佐藤彦一
    - 芝三四司 小宮良史
  - 昭和11、20
    - 丸山恵次 小宮秀史 安達保治
    - 山口吉五郎 山田松次郎
  - 大矢常吉 山田チエ 佐藤道雄
  - 小嶋京子 深松サダ 斎藤カウ
  - 佐藤敏雄 山口光雄 三重堀清
  - 浅田 猛 太刀川善蔵
- 昭和21、30
    - 阿部修次 新野次郎 山岸慶昭
    - 安達和三 黒崎 正 佐藤祐一
    - 相崎達一 大塚順一 小野塚茂
    - 吉原三代治
  - 昭和31、32
    - 藤塚 悟 黒崎音吉 吉井信三
    - 諸我時夫
- 左記六名様より、ご芳志をいただきました。
- 安達宗吾 酒井ミヨ 山口三郎
  - 黒崎孝造 勝又 功 黒崎 勇

## 出席者の声の中から

会が三十五年も続いているのは、役員の方の賜で感謝のほかないが、いつまでも今

のような状況では衰退するしかない。若い人の力を導入すべきではないでしょうか。

母校を励ます会の講演会を開催するに当地元の声や希

## 母校近況

花いっぱい運動で三年連続特選

苗からでなく、種から一貫して育てるのが特長。中学の花壇の美しさは、以前から注目されている。二十四種の花が、色とりどりに咲いた。昨年は野菜の栽培も手がけ、園芸部の活躍は目ざましかった。「あしたの新潟県を創る運動協会」より表彰された。

## 球技の活躍、十大ニュースのトップに

昨年中学校は、バスケットで全国大会に出場(堺市)、またバレーでは、北信越大会で健闘して、町にとって大きな明るいニュースだった。片貝十大ニュースは、毎年農協が町民に呼びかけて、まとめている。

## 女子バレー準優勝

1月30日 長岡を会場にして開催された県の大会で、巻西中と決勝戦を行った。僅か五点差で、惜しくも優勝を逃した。

## 完成近い、新体育館

望をとり入れる必要がある。同窓会や協議会でも、同様の企画があるようだから、全体としての調和を考えて実施するのが好ましい、と思う。

昨年秋に校舎はできあがったが、体育館だけは、平成六年度に完成する予定だった。それが景気浮揚策の一貫として、三か月繰上げられて、五年度中の工事となった。

## 小学校の校歌と相馬御風

今の校歌と「健児の歌」は、相馬御風の作詞である。昭和八年に創立六十周年式典が挙行された。その記念行事として、校歌と健児の歌が制定された。

当時、安達寅治氏(鹿島屋)はPTAの役員をしていて、相馬御風とは、父の寅松の代から親交があったので、依頼したもの。作曲は中山晋平。(小千谷新聞)

## 給食の試食会

1月27日 全国の学校給食週間が、毎年一月に実施されている。

教育委員会や市議、業者らが児童らと一緒に試食会を実施した。お行儀がよく食べ残しも少なく、評判がよかった。

# ご協力、延べ千名を突破

## 母校を励ます会、報告

会の基金に、ご協力いただきました方が、延べ千名を遂に越えました。これまでに、七回、八回と連続してご送金下さっている会員も、多数ございます。ありがたいことです。昨年の春、着任された井口

(小)、小林(中)両校長先生は、今後ずっとこの活動を継続していただきたい、児童生徒の大きな励みになっているから、との力強い言葉も承っています。今回ご支援いただいた二十三名の方を、左の通り報告いたします。

毎年の例を見ますと、前の半年間は、後半と比較して、少人数になっています。前の48号に、母校の児童生徒達の声を掲載したために、二頁分増頁となりました。そのための費用、三万五千円を「陽光会」(昭31卒)からご寄贈いただきました。記して謝意を表します。

ご協力いただいた方(23)  
 ○大正 佐藤正雄 高野朝五郎  
 ○昭2~10 小川茂雄 芝五郎 酒井ミヨ  
 山口三郎  
 ○昭11~20 神林マス 浅田猛 山口光雄  
 上田ヒサ 浅田栄三

母校を励ます会・会計報告			
会報48号以後の収支 (平成6・1・1~6・5・31)			
収入	¥113,246	支出	¥36,090
基金(23名)	78,000	はがき	1,090
寄付	35,000	利息246	35,000
		会報代補助	
通算会計 (昭和58・5・1~平成6・5・31)			
収入	¥3,511,729	支出	¥2,630,034
基金(延1004名)	3,234,200	寄贈図書(11回)	2,400,000
寄付	35,000	講演会(12回)	120,000
利息	242,529	会報補助	35,000
現在高	¥881,695	印刷・郵券	75,034

- 昭21~30 阿部修次 黒崎正 小林均 佐藤祐一 丸山良司 吉原勉 黒崎紀雄
- 昭31~38

# 十五年続いた 青巒荘、花の旅

四月九・十日

曇ってはいるが、まず降られる心配はなかった。心も浮きうきと出発した。青巒荘への一泊旅行が復活したのは、昭和五十五年の春であった。それから回を重ねること十五回、よくも続いたものである。

会報47号(平成5年6月)に来年は20回を迎える、とありますが、15回の誤まりでした。今回のお世話は、太刀川善蔵さんと黒崎正さんが引き受けてくださった。

何をおいても、まず露天風呂につかる。漸くに芽生えた新緑が心をなごませてくれる。たえず落下してくる滝の響きに耳を傾け、身も心もゆったりとして、命が伸びる。宴会も和気あいあい、一層

- 藤塚 悟 諸我時夫 吉井信三
- 小野塚和夫
- 大阪 大矢三郎



盛りあがって、夜の更けるのも忘れた。翌朝は好天で、花見にゆく足どりも軽かった。満開の桜の下で、おでんを頬ばりながら、談笑がつづいた。参加者は七人、例年に比して少人数だったのが、惜しま

れる。以前は三十名を越したものである。それにしても、楽しい集いであった。

当日の参加者(順不同)  
 勝又功 黒崎正 小宮幸雄  
 阿部修次 新野次朗 安達和三  
 太刀川善蔵

### 会員短信 (敬称略)

大矢福次(大正12) 目が不自由になりました。  
 菅野リヤ(昭2) 長い間足腰が悪く、難渋です  
 浅田シズイ(昭3) 病氣入院中(昨年12月)  
 藤塚栄三郎(昭4) 退院後、リハビリ中です。  
 石黒佐忠太(昭4) 年のせいかすっかり弱ってしまいました。

7) 大矢幸治(昭) 寒さの時は、医師から外出を止められています  
 長野チイ(昭9) 健康を害しておりますので  
 広川久美子(昭12) 外国帰りの孫(高校生)の世

話をしています。丸山恵次(昭14) 日書展の公募、漢字部門に入賞致しました。都立美術館 山崎勝子(昭26) 秋祭りに五十五才で参加予定  
 小野ひろ子(昭30) ふる里はいつ思い出しても、良いものですね。  
 宮入祐子(昭47) 盆や正月には帰れないので、賽の神には帰る予定です。(ほか、会報への礼状多数)

わが町、好きなどころ 嫌いなところ

明るい町づくり委員会の調査。昨年の暮に二百名に照会。好きなどころ  
 ・祭りの明るい雰囲気  
 ・保育園から同じなので、まとまりがよい。  
 嫌いなところ  
 ・祭りに金をかけすぎる  
 ・祭りの馬鹿さわぎ  
 ・仲間意識が強過ぎて、部外者に対しては排他的だ。  
 希望すること——森林を減らさないで。長岡商圏に近づけ、ベッドタウン化する。冬間に運動できる施設を。スポーツの町と思う53%、教育の町と言われるが、それ程でも85%。

# ふるさと・は・今

町のできごと  
5年12月〜6年5月まで

全国誌で紹介された「リサイクルかたかい」12月号

「パンプキン」は女性向けの月刊誌である。12月号に片貝のリサイクル運動の活動ぶりが紹介された。

執筆者は元川口市住民だった松田美夜子さん。川口市はこの運動の先駆市として活動しているが、平成四年に、片貝が町づくり集會に松田さんを講師として招いた。これがきっかけになって、

現在のリサイクル運動を展開することになって、今日に及んでいる。松田さんの夫の日出男さんは片貝にUターンして、片貝の住民となった。

松田さんには「ゴミは素敵な魔法つかい」の著者がある。**県下最大を自認する賽の神**

1月15日 昼夜にわたっていろいろ行事が行われたが、メインは午後七時から。参道に六百本のローソクの

灯りがつけられ、成人を迎えた希進会が、仕掛け花火を上げた。続いて四十二歳のつどい会による福餅まきの後、高さ十米の賽の神に点火されて、今年の無病息災を祈願した。

三之町の「ほのぼの組」は、初めて境内で、甘酒をサービス、八百名を越える人が賞味した。**池津に猿が**  
1月23日 池津の県道を走っていた車

の前に飛び出してきて、走り去った。警察署員が急行したが、雪の上に乗々と足跡を残すのみ。野生かどうかは分っていない。

**リサイクル運動** 2月18日 町裏の会場で廃品回収業者と町の関係者が懇談した。

お金になるビンとならないもの。紙類でも雑誌は特に安い。大型ゴミの処理が大変だ、など貴重な意見が出た。「継続は力なり、これからも地道な活動を」が、結論だった。活動は四月から再開された。

**公民館長さま** これまで四年間勤められた吉井陽氏にかわり、元農協理事だった黒崎力男氏が就任。片貝の活性化を願って

どうしたら町が活性化するか、故本田善治氏の呼びかけで、祭りの際に物産コーナーを設けた。徐々に売り上げを伸ばし、昨年は十二業種が参加して、計四百万円。

まず、地域行事に参加しよう、と、春祭り、秋祭り。熱気球の打ち揚げなどを通して、PRにつとめる。無理をせず、足もとからをモットーにして。その名も片貝組、松井均氏が代表。

**桜の花にライトアップ**  
4月16日〜26日  
午後6時半〜9時

中学の木造校舎が解体されることになって、愛着のある校舎に名残りを惜しもう、と、昨年から実施された。

小、中学校の校舎の前側から酒座川に沿って桜並木がある。中学、協議会、同窓会が協力して、夜桜を楽しもうと、ライトアップした。本年は昨年にも増して、美しい花を咲かせてくれた。

**空手道大会** 4月24日 小林光紀氏が主催する光武会の大会が、中学校の体育館で行われた。



県下に門下生が多数いて、七十名が参加した。朝の十時から四時まで熱戦が展開された。

中学生、高校生、一般の部に分け、それぞれの組で優秀な成績を挙げた者に賞が贈られた。

**浅田壮太郎先生を偲ぶ会**

4月24日 片貝が生んだ学者、浅田先生が逝いて、本年は十三回忌を迎えた。

禅の奥義を極め、幅広く学識があり、晩年は良寛の研究に没頭していた。片貝の歴史や郷学を調べたその記録は、貴重な著述となるであろう。

生前、先生と親交のあった人達か、その思い出を書いて、出版した。「ゆめ、思いの道」

その集いが、美好亭で開催された。出版に中心となって働いた市議の関 広一、郷土史研究会長吉原芳郎氏など、六十余名が、在りし日の先生を偲んだ。

小千谷市長寛会長、市長代理助役、議長さんも出席。**山火事おこる** 5月7日 午後一時すぎに大連寺地内で山火事がおきた。

雑木林の千平方米が焼けて、約一時間で鎮火した。ここは土砂採取地の跡で、原因は不明である。

## あとがき

三十五周年を迎えて、感深いものがあります。皆さんの協力があったればこそ、と思います。会をお世話下さる方々の若返りが、計画されています。期待してやみません。片貝会が、いつまでもお互いのよりどころとなり、励ましになるならば、まことに本望です。

## 東京片貝会 会計報告

(平成5・4・1〜6・3・31)

収入総額	¥1,884,698	支出総額	¥1,884,698
前年度繰越	370,498	総会費	336,975
年会費	379,000	（会館払 291,225）	
総会会費(41名)	235,000	（お車代 20,000）	
新年会会費(61名)	305,000	（おみやげ 25,750）	
祝儀寄付	195,200	新年会費	327,354
別途積立	400,000	（福引補助 42,000）	
		（会館支払 285,354）	
		印刷費	32,200
		通信費	121,373
		事務費	2,000
上記の通り報告致します。		会報費(47・48号)	204,628
平成6・3・31		交際(旅費)	30,000
会計部長 黒崎孝造		慶弔費	10,000
副部長 山口武一郎		寄付 中・横断幕 小・120周年	200,000
上記は適正であることを認めます。		振替手数料	13,600
会計監査 小川茂雄		別途積立金	400,000
大矢幸治		次年度繰越	206,568